

ユマニテク医療福祉大学校 令和5年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時 2024年3月14日(木) 15時~16時20分

場所 ユマニテク医療福祉大学校 会議室

【学校関係者評価委員】

関係団体 三重県社会福祉協議会 事務局次長 明石 典男 様

関係団体 三重大学教養教育院/医学部医学・看護学教育センター(兼)教授 太城 康良 様

関係団体 三重県介護福祉士会 副会長 甲斐 義典 様

関係企業・卒業生 三重厚生連三重北医療センター 作業療法室 伊藤 正敏 様

卒業生 歯科衛生学科同窓会長 増本 綾子 様

地域住民 塩浜地区連合自治会 塩浜本町2丁目自治会長 谷崎 知文 様

【学校側】

校長 小出 益徳

理学療法学科長 田中 宏明 作業療法学科長 山崎 治行

歯科衛生学科長 北川 順子 介護福祉学科長 酒井 夕香子

事務長 東松 恵子 事務職員(書記) 水谷 美加

1 挨拶

開校して四半世紀が経過いたしました。各関係者の方々のご協力の賜物であると考えています。今引き続きご協力の程よろしくお願い致します。本日は今後の学校運営のために忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。

2 出席者自己紹介

各委員が自己紹介を行なった。

3 学校概要説明

田中学科長より資料に基づいて学校概要の説明をし、配布資料の修正を行った。

4 学校自己評価結果について

・学校自己評価結果の(1)教育理念・目標(2)学校運営について資料に基づき田中学科長より説明を行った。

・(3)教育活動(4)学習成果(5)学生支援について各学科長より追加説明した。

**理学療法学科**: リハビリ工学などの先端技術について専門家による講義などができておらず不十分であり、パソコンやタブレットを使った授業の実施も合わせて改善・工夫を行っていききたい。11月に受けたリハビリ教育評価機構の評価において、ハラスメントへの取り組みが不足していることを指摘された。リーフレットを作り配布することや、事例を蓄積しその解決方法をホームページでの情報公開が必要とのことで今後検討していききたい。退学率については意欲向上の取り組みがまだまだ必要であり、授業内容の改善や効果的な声かけ、ロードマップの提供等検討していききたい。

**作業療法学科**: 退学率を下げるための取り組みとして、1年生では学力不振改善のための教科毎の自主学習を行い、結果として教科ごとの平均値が上がった。退学率についても改善できた。国語力フォ

ローについては教員の教育の質も問われるため知識向上が必要である。

**歯科衛生学科**：今年度は OSCE（客観的臨床能力試験）を実習直前に取り組んだ。時期や内容等の改善は必要だが POST OSCE まで徐々に計画していきたい。学科としての課題はデジタル化で教育が追い付いていない状況がある。退学については今年度も 5% 未満であり、キャリア形成においては様々な分野で活躍している卒業生を紹介している。

**介護福祉学科**：留学生については日本語能力が必要であるため、1 年生だけでなく 2 年生でも日本語授業を行い、国試を踏まえた対策を行った。退学については留学生 1 名が進路変更で退学した。次年度は新カリキュラムとなり ICT や美容など今後必要となる知識技術の習得を目指していく。

・(6) 教育環境・(8) 財務について事務長より説明した。

校舎全体が経年劣化しており、順次修繕を行っているが、今年度は人件費の見直しがあったため修繕費を最小限に抑えた。今期できていない部分は次年度以降順次進めていきたい。(東松事務長)

・(7) 学生の受け入れ・募集(9) 法令等の遵守(10) 社会貢献・地域貢献について田中学科長より説明した。

## 5 学校関係者評価委員による評価

太城) (3) 教育活動の「多職種連携教育は看護学科と合同で開催」はどのような内容か。

田中) 4 学科と看護学科の最終学年で実施。

太城) 教育目標やポリシーに合致した教育であり貴重な経験となるだろう。

伊藤) 会議資料の届くのが遅かったので早くしてほしい。合格率 100% の為の個別指導は良い。グループで相談する機会も設けるとよい。退学率の減少への取り組みも必要なので引き続き取り組んでほしい。理学療法についてはどのような対応をしているか。

田中) 現在は担任に指導を一任している。

伊藤) 教員の残業にもつながってしまうので就労時間も考慮してほしい。

増本) 卒業生にもハラスメントの研修があると良い。

北川) 現状教職員のための研修となっているが検討していく。

甲斐) 退学者の退学理由はなにか。

田中) 予想外に勉強が大変でついていけない、学習習慣がない、指導してもやれない。伝え方の工夫が必要と考えている。

太城) 大学でも同じ。国語力、語彙力の底上げ、サポートが重要になる。学力・人間性を補う方法として e ラーニング等のシステムがあるとよい。

甲斐) 学生の多様化や少子化等に伴って教育内容も変化していく。専門職の力も借りて、現場を巻き込んで教育するのもよい。

谷崎) 地域では文化祭を再開しており、地域との交流の場として、学生、留学生も参加してもらえると地域理解が図れるので関わっていただきたい。

## 7 意見交換

伊藤) 卒業生の学会発表支援や機会を提供してほしい。学会発表に専門学校の教員の名前があると印象が強く残る。研究指導や学習機会を指導し業績をつくれると良い。

太城) アセスメントポリシーにおいて学生アンケートを検討しているとあるが、より正確な結果を求めるには、アンケートの最初に積極性、勤勉性についての指標を設け、4 パターンに分け、あ

いまいな回答を除外する方法がある。参考にしてほしい。

伊藤) 作業療法士として養成校がなくなるのは職域も危ぶまれる。職業認知度が低いことが課題であり、職能団体と共同してアピールすることが必要である。

太城) ネットリテラシーについては何か対応しているか。同意書を取るなど対策が必要。ネットリテラシーに関する指導記録や実績があればよい。また、ICT化について、教材の電子版があれば翻訳もでき、プリントの資料を忘れても閲覧することができるため、紙代節約以外の効果がある。

## 8 その他・連絡

特になし。